

会 議 録

会議の名称	第2回 子どもが輝く学校の未来構想検討委員会
開催日時	令和6年10月21日（月）
	13時00分 開会 14時45分 閉会
開催場所	斑鳩町役場 3階 第1会議室
議長等の氏名	委員長 安井 義和
	副委員長 森下 暁
出席者（委員） の氏名	田中 和則、吉川 健、井上 卓也、富井 孝則、清水 俊匡、 橋口 里子、坂本 恵美、浦林 潔、久保 茂樹、岡方 良一、 下村 知子、遠山 健
欠席者（委員） の氏名	小村 尚己
事務局職員職 氏名	山本 雅章（教育委員会 教育長） 本庄 徳光（教育委員会 教育次長） 仲村 佳真（教育委員会 事務局総務課 課長） 藤村 保夫（教育委員会 事務局総務課 学校教育指導主事） 柳井 孝一朗（教育委員会 事務局総務課 課長補佐） 下平 愛 （教育委員会 事務局総務課 主事）
議題	・ 審議事項 （1） 住民アンケートについて （2） 今後のスケジュールについて
会議結果	・ 審議事項 （1）、（2）について、事務局から説明 （1）の内容の一部修正について、正副委員長及び事務局に一任
会議資料	・ 次第 ・ 資料6 住民アンケートについて
議事の経過	
発言者	発言の要旨
事務局	（検討委員会の成立について） 総委員数15名のうち、14名の委員が出席のため、斑鳩町子どもが輝く学校の未来構想検討委員会設置条例第6条第2項により当検討委

	員会が成立する。 (資料確認 (次第、資料6)) (署名委員として、井上委員、富井委員を指名) 1. 審議事項 (1) 住民アンケートについて、事務局より、説明をお願いします。
安井委員長	
事務局	(資料6に基づき説明)
安井委員長	ただいま、事務局より説明がありましたが、何かご意見、ご質問がある方はおられますでしょうか。
A委員	保護者がアンケートを答えるにあたり、保護者は、1学級当たり何人が良いとかは、答えにくいという面があるように思います。 家でも、子どもとそのような話はあまりしていませんし、保護者は、授業参観などで授業風景を見る程度ですので、学校の状況を知らない方が多いと思います。 あと、対象者として、子どもに対するアンケートがないことに疑問を感じます。実際に、学校に通っている子ども達の「今、思っている事」を聞く方が大事だと思います。
安井委員長	ご意見、ありがとうございます。 子どもに対するアンケートがないとのご意見ですが、事務局の考え方はいかがでしょうか。
事務局	対象者を、保護者、教職員、町民のみなさんに、3つに分けておりますのは、今の学校や子ども達に対して、どのように感じておられるか、また今後どのようにしていく方がよいのかなど、「子ども達に対する目線」という考え方で、対象者を整理させていただきました。

	なお、今後、子どもの意見を聞くことが必要というタイミングがあれば、アンケートを取ることにについて、本委員会で協議させていただければと考えております。
安井委員長	子どもへのアンケートは、他の自治体では、実施していないことが多く、また、取り纏めも難しい一面もあるのだと思います。 ただ、子ども達と教職員の考え方は、大きく違うということは事実だと思っております。
A 委員	このようなアンケートを行う場合、回収率はどの程度ですか。
事務局	他のアンケートの回収率につきましては、現在、数値を持ち合わせておりませんが、町民アンケートのように、対象者を無作為に抽出した場合は、一般的な回収率は、40%程度と言われております。
安井委員長	アンケートの種類にもよりますが、一般的には、5、6割あればいい方だと認識しております。 それでは、次に、アンケートの依頼文ですが、抽象的な表現も含まれておりますので、何か理解しにくい部分などがありましたら、ご意見をいただければと思います。 また、アンケートは、回答していただきやすいように、難しい表現は避けておいた方がよいと思いますので、依頼文と合わせて、何かご意見などをいただければと思います。
B 委員	保護者向けのアンケートですが、町立の保育園や幼稚園だけでなく、私立に通園している方は、対象にならないのでしょうか。 例えば、斑鳩町に住んでいて、法隆寺幼稚園に通っておられる保護者にもアンケートはするのでしょうか。
安井委員長	斑鳩町内にある私立の保育園、幼稚園に通われている保護者へのアンケートをどうするかについて、委員の皆様にご意見を伺いたいと思います。 私立の保育園や幼稚園に通われている子ども達は、大半は、町立

	小学校に入学すると考えられますので、個人的な見解では、私立の保育園、幼稚園に通われている子ども達の保護者をも対象にしてい くことは考えられますが、いかがでしょうか
C委員	現在、町内の私立の保育園や幼稚園に通っている子ども達や斑鳩町在住で、町外の幼稚園に通っている子ども達も、町立小学校や中学校に入学すると思いますので、その辺りも想定して、アンケートをした方が良いでしょう。
安井委員長	ただいま、私立の保育園や幼稚園も対象に含めることについて、ご意見がありましたが、町内に在住している方で、町内の私立の保育園と幼稚園に通っておられる保護者も対象にすることは、いかがでしょうか。
森下副委員長	原案のアンケートの回答期限が11月22日になっていますので、公立のみを対象とする場合は、このままで良いと思いますが、私立も含めるのであれば、スケジュールを調整する必要があると思います。 私立も対象にするなら、園長にお尋ねして頂き、その後、加えていくという形で、ご検討いただければと思います。
事務局	町内では、保育園で、斑鳩黎明保育園、幼稚園では、レイモンド斑鳩こども園と法隆寺幼稚園があり、この3園を対象とすることにしまして、本委員会及びアンケートの趣旨等を相手方に説明させていただきます。 また、町外在住で、町内の保育園や幼稚園に通われている保護者もいらっしゃいますので、その方は対象外にすることへのご協力を求めていくことも必要になりますので、その辺りも含めてご協力をいただける場合は、私立も含めて、アンケートの実施をすすめさせていただくという形で理解させていただきたいと思います。
安井委員長	それでは、本委員会としましては、町内の私立の保育園と幼稚園に通われている町内在住の保護者をも対象としまして、相手方が同

	意をしていただければ、ご協力をお願いしていくという形で整理させていただきます。
D委員	私立の保育園と幼稚園の教職員は対象外とすることでしょうか。
安井委員長	そのような形と認識しております。
D委員	愛の園幼稚園に通っている方も対象者になりますか。
事務局	町外の私立も対象に含めるということでしょうか。
D委員	はい。将来的には、町内在住者であれば、斑鳩町の小学校に通われると思いますので。
安井委員長	町内在住の方で、町外の私立に通っておられるかについては、例えば、大阪府等に行かれている場合もありえますので、調べきれないと思います。 一定の枠も設ける必要もあると思います。
森下副委員長	本日の検討委員会の内容から、私立の保育園と幼稚園に通っている保護者もアンケートをお願いするという方向を持ちながら、対象者をどこまでとするか、可能な範囲については、事務局で検討していただき、アンケートを実施する方向でいかがでしょうか。 疎外感のないような形で進めていければと思います。
安井委員長	森下副委員長のご意見も含めまして、委員長、副委員長、事務局に一任していただけますでしょうか。
全委員	(異議なし)
安井委員長	ありがとうございます。 次に、アンケートの内容については、いかがでしょうか。

森下副委員長	私が最初に、アンケートを見た時に、難しいと思いました。施設規模を考えるうえでは、仕方ないと思いますが、これまで1学級あたりの人数をあまり気にしたことがないという感じです。 ただ、学校施設の老朽化など、こういった状況をふまえ、考えて頂くいい機会となりますので、皆様に、お願いをするという形になると思います。
E 委員	このアンケートは、今後の方向性を決めるエビデンスの一つとなると思いますので、アンケートを回答するうえで、現在の学校施設の状況や少子化がすすむことなどを、知っていただいたうえで、回答していただく必要があると思います。 さらには、将来が想像できるような内容にすることで、皆さんが、回答しやすくなると思います。 例えば、選択肢の一つとして、「小1の壁」と記載していますが、言葉を理解しにくい中で、選ぶ方もいると思いますので、注釈を入れるなど、配慮が必要だと思います。 あと、中学校ですが、前回の資料にはなりますが、現在の両中学校では、令和7年度の予測学級数は、4クラスとなっていますが、40年後は、3クラスになると記載されていました。 これを見ると、1学年あたり2、3学級が適正であると思われる方は、現状で良いと回答するだろうし、5学級以上が必要と考える人がいれば、統合するしかないと思われるが、このような想像もできた上で、回答していただけるかは疑問に感じます。 我々は、いただいた資料がありますので、一定程度は、想像はできますが、アンケートを回答する方は、資料を見ずに回答することになるのでしょうか。
事務局	アンケートの依頼文をご覧くださいませでしょうか。四角で囲まれている範囲の中で、本検討委員会の第1回目の資料と議事録を閲覧していただけるように、URLを記載しております。 ここから誘導するというような、意味合いで記載しておりますが、どれくらいの方が見ていただけるかという問題点はあるかもしれません。

安井委員長	しかし、意図としましては、資料を見ていただいたうえで、アンケートに回答していただくというようなことで記載しております。 普段、聞きなれない「小1の壁」という話がありましたが、国では、学校施設の適正化などに関する関係資料をはじめ、膨大にありますので、前回の委員会では、その一部を抜粋したものを提示させていただきましたが、アンケートを回答していただく方の事を考えますと、回答するための簡単な資料を加えることも良いかと思われます。
森下副委員長	本アンケートに回答していただける方が、学校施設の老朽化がすすんでいることなど、どの程度理解され、想定されているかは分かりませんが、学校現場に対する認識の差がある中では、フラットな印象で書いていただくしかないのかなと考えます。 そのフラットな意見を基に、検討委員会にて議論をすすめていければいいと思います。 あと、ご指摘のありました、難しい言葉は、注釈を入れるなど、工夫は必要だと思います。
A 委員	アンケートを実施することは、既に、学校の広報などで知らせていますか。
事務局	現時点では、お知らせしておりませんが、本検討委員会で、アンケート内容を議論していただきました後、学校長や園長から教職員に、そして、児童生徒を通じて保護者にお知らせする予定です。
F 委員	アンケートは、グーグルのアカウントを通じて、実施することが多いですが、回収率が高くないケースが多い状況です。先ほど、一般的には、40%というお話がありましたが、今回は、どの程度の回収率を見込んでいますか。
事務局	他の自治体の実績なども見ておりますと約8割程度の回収率がありましたので、本アンケートでは、保護者や教職員の約3,000

	人の約8割である、2,400人程度の回収は見込めるのではないかと想定しております。また、無作為に抽出した町民の皆様の300人につきましては、約4割の120人程度の回収を想定しますと、合計で、約2,500人の回収は見込めるのではないかと考えております。
C委員	私自身、この委員会に参加しているので、色々な状況を確認できておりますが、一般の住民の方は、急にアンケートが届いても、回答して頂けるか疑問に感じます。 特に、現役の子育て世代は、直接、生活に関わることではないと、返答率が高くないと思います。 自分の子どもに直接関係しないと、誰かが答えてくれるのではないかと考える方が多くなって、回答率が、子育て世代ではないの方が多くなるのではないかと思います。
安井委員長	ご意見のとおり、一般住民の方の意見が多くなりすぎないようにしながら、回収したデータが価値のあるものにするという意味で、一般住民の対象者を300人としております。
C委員	アンケートの質問をもっとシンプルにした方が良いと思います。保護者は、授業参観などでしか教室の様子を見ていないので、「今の状況が多く感じるか」のように、簡単な質問にした方がより答えやすいと思います。
安井委員長	アンケートの質問と回答の選択肢は、事務局と打合せしまして、例えば、問1では、選択肢に具体的な人数を記載しておりましたが、現状と比較して、「多い、少ないと感じる」と変更しました。 保護者の方は、年に何回かは、学校に来られる機会があると思いますが、1学級あたりの人数や1学年あたり学級数のことについて、考えることは、それほど機会はなかったと思いますので、先ほど、森下副委員長のお話のとおり、フラットに考え、答えて頂ければと考えております。

C委員	文字がかなり多いので、答えやすいイメージのアンケートにした方が良いのかなと思います。
森下副委員長	確かに、文字が多いとハードルが高くなってしまうと思います。 ただ、その回答率をもって、学校教育に対する認識具合というものを測ることができると思います。
安井委員長	これまで、教育関係に絡む内容で、保護者等に斑鳩町がアンケートをしたことは過去にありますか。
事務局	これまで、教育に特化したアンケートはあまりなく、子ども子育て関係の計画策定に伴うアンケートや総合計画や都市計画マスタープランなどのアンケートの一部で実施しているくらいです。 本アンケートのように、これまで、教育に特化したアンケートはなかったと思われますので、町独自の学級編制の取組みについても、少し宣伝になるのではないかと思います。
安井委員長	教育委員会から諮問を受けました、この検討委員会が立ち上がっていること、存在していることのアピールにもなるのではないかと思います。
G委員	本アンケートのメインは、問6であると思います。 そのための根拠として、問1～問5があるということですが、重要な質問である問6を最初にもってきて、その理由を聞いていくという形にしてはどうかと思います。 学校の統廃合、建て替えなどをどうするのかについてが、一番聞きたいと思いますので、問6を一番初めの質問にして、アンケートを答えやすい表題にする方がよいと思います。 あと、本検討委員会で、何を聞きたいのかについて、分かりやすく表現する方がよいと思います。
C委員	問6を一番初めにする方がよいと思います。

G 委員	本検討委員会では、学校施設の老朽化や子どもの人数の減少がすすむなかで、今後どうしていくべきかを検討することになっていきますので、「みなさんが、どう思っているのか」という結論を聞きたいと思います。 例えば、「学校の数減らして統廃合する」、「統廃合すれば、通学距離が遠くなるので、建て替える」、というような答えが出ると、それが住民の答えだと思います。
安井委員長	事務局として、アンケートの構成などの意図・趣旨を再度、ご説明いただけますか。
事務局	まずは、それぞれの地域にお住まいの保護者、それぞれの学校の教職員、町民の皆様と、学校関係者と地域というように対象を分けております。 アンケートの内容につきましては、まず、現状の学校をどのように感じておられるか、そして、現状をふまえて、将来、どのようにしていく方が良いと思うか、というような順番にしております。根拠に基づく考え方を聞かせていただくという形で、調製させていただきました。
森下副委員長	私の理解で申し上げますと、実際の学級数、児童生徒数の視点から、どういう学校であるべきかという答えを出し、そのうえで、どうしたら効果的な学校としての役割を果たせるかということを聞いていただければと思います。 学級数等で出てくる答えを横軸にして、問 5 の学校が担う役割とクロスすることで、どういうものが浮かび上がるか、それを把握できると思います。 問 6 とそれまでの質問では、角度が違うため、統計的にどうなるかは分からないが、浮かびあがる答えがあると思います。 そのような趣旨から、この最終の質問に至るアンケートの形になっていると理解しております。
安井委員長	問 6（2）が、皆さんが一番関心のある質問だと思います。

	しかし、問6（2）だけでは、結論や方向性を決められないので、その答えに至る根拠が必要だと思います。その根拠をふまえたうえで、答申を出していくことになると思います。
C委員	ただ、アンケートに答えていただかないことには、方向性なども決められないと思います。質問の順番を変えることで、回答率も変わり、関心も変わってくるのかなと思います。 老朽化や統廃合などの言葉は聞き慣れているが、難しい言葉があったり、長いアンケートだと、初めから読んでいただけない、また回答していただけないことが考えられると思います。
事務局	アンケートの質問の順序につきましては、先程、ご説明させていただきましたとおりでございますが、文部科学省の手引きでは、結論があるというより、まず結論を考えるうえで、教育的な観点、地域コミュニティの核としての観点をふまえて、地域の方のご理解とご協力をいただきながら、丁寧な議論を行うことが求められると、記載されております。 当然、皆さまが知りたい内容は、問6（2）ということになると思われますし、本検討委員会でその結論を出すのは、その適正化に向けた部分でありますので、その結論に至るまでの頭の中で整理ができていない状況の中で、その前提条件となる部分を一つずつ皆様がどう思っているかということを順番に構成させていただいております。 結論が先にあると、なぜそこに至ったかをいうことを頭の中で整理されないまま、直感的に答えられてしまうことから、このような配列にさせていただいております。
森下副委員長	アンケートは、想定していない回答があることを前提として、どのようなことが浮かびあがるかというのを見る必要があると思います。簡単に聞いてしまうことより、少し広げて聞いて、導き出される答えと照らし合わせることも、このアンケートの趣旨だと思います。 まずは、アンケートを実施してみて、どのような回答があるか、場合によっては、今後の委員会の進み方や、再度お聞きすることも

	検討してよいかと思います。
H委員	アンケートについては、もっと簡素化することも一つだと思いましたし、状況によっては、第2弾を実施することも一つの手法ではないかと思います。 あと、話は少し変わりますが、防災面について、水害にあった場合、西小学校と南中学校が使えない状況になりますし、もし、移転するならば、国道25号に沿った場所にするなど、この検討委員会で、将来の学校のあり方を検討するにあたっては、防災対策も考慮する必要があると思います。
安井委員長	本年1月、能登半島地震が発生しましたが、学校は、災害等の発生した場合に、防災拠点になります。 本検討委員会は、小・中学校の適正規模・適正配置の検討を行うことですが、色々な背景や要素を取り入れつつ、防災関係のみならず、今後は、多くの面で地域との関係について、学校が主体になっていくと想定されます。 しかし、まず、子ども達が学習する場としての規模や配置に主眼を置いて、保護者がどう思っているかをふまえ、検討をすすめていきたいと思います。 また、このアンケートは、学校に対して、どれだけ関心があるか、知っていただいているかが確認できると思います。 抽象的な表現もあるとは思いますが、適正規模・適正配置の1番の基本は、1学年あたりの学級数をどうするか、1学級あたりの人数をどれくらいにするかが、ベースだと考え、事務局にこのアンケートを作っていただきました。
D委員	まずは、アンケートを実施し、その反応や回答率を見て、検討していくこと一つだと思います。
森下副委員長	まずは、アクションを起こすことも大切かと思っています。
E委員	アンケートのボリュームを減らすという意味で、問6（1）5.

	の「地域の防災活動の拠点など、学校施設の多機能化」を問５の中に入れ、また問５の質問の内容を、今後の地域における拠点として担う役割という形に変更すると、（１）と（２）を統合できると思います。
森下副委員長	問５で、現状認識を問わないということにして、問６も含めて、再度整理し直すことも良いと思います。
事務局	問５の（１）と（２）は、似た回答がでてくることも予想できますので、統合し、今後、どのような機能が必要になってきますかというような質問に変えさせていただくとともに、問６との整合性につきましては、改めて、委員長と副委員長にご相談させていただければと考えております。
安井委員長	テレビなどで、防災の事は、色々な情報を得ていると思いますが、学校が、防災拠点のみならず、最近は、様々な活動の拠点になっているということを、ご存じない方もいると思われます。 学校の多機能化については、多くの方に知っていただく必要もありますので、問５と６は、その辺りも含めて、委員長、副委員長、事務局にて、再度整理させていただきたいと思います。
I 委員	アンケートの対象者ですが、保護者は、私立の保育園と幼稚園を加えていくということでしたので、当初予定人数より、増えていくことになると思います。一方、町民の３００人を変更しなければ、総数に対する町民の割合が変わると思いますが、その形ですすめていくことになるのでしょうか。 また、アンケートについては、様々な立場の方が回答するという意味では、聞きたいことが、たくさんあっても、シンプルにする方が良いと思います。 アンケートの質問の中で、問１（４）で、「６学級以上」という箇所を「全校で６学級以上」にする方がわかりやすく、また、回答の選択肢の「２．１学年あたり２～３学級」を「２学級」と「３学級」に選択肢を分けることも良いのかなと思います。

安井委員長	問２（４）にも共通しますが、４学級以上の区分をなくして、「４学級以上」と統一することでもいいのではないかと思います。 問３と問４の（２）で、質問の中には、通学距離の基準が記載されていますが、回答の選択肢では、時間が記載されていたので、距離と時間を併記するなど、工夫が必要かなと思います。 アンケートの対象者ですが、保護者のご意見を大切にしていくことが重要であると思いますので、町民の３００人は、変更しなくてもよいかなと思いますが。 あと、学校現場では、１学年あたり、２学級か３学級では、大きく違うと想像できるのですが、一般の回答者にとっては、迷ってしまう恐れがあるのではないかと思います。 事務局としては、国の基準に基づき、２～３学級と記載していると思いますが、みなさんいかがでしょうか。
事務局	文部科学省の手引きによると、１学年あたり１２学級～１８学級という基準がありましたので、２～３学級とさせていただきました。 また、問１と問２（４）につきましては、４学級以上と纏めて一つの選択肢に変更することは可能かと思います。 問３と問４の（２）につきましては、記載方法を整理させていただきます。
Ｉ委員	２学級と３学級を分ける理由としまして、３学級を維持できないかもしれないが、３学級が良いという回答があったり、２学級編制しかできない学校は、当然、そのままの規模では良くないという意見になり、学校を統合するなどの意見となるので、今後の検討材料につながるのではないかと考えたところであります。
安井委員長	１学年で単学級と複数学級が違うということは、一般の方も分かりやすいと思いますし、まして教員は、全く違う環境であると認識すると思います。 しかし、２学級と３学級というのは、細かい分け方になるため、回答しやすくするという意味では、２～３学級とする方が、良いの

	かなと思います。 あと、4学級以上と一つにまとめて聞いた場合、その結果が多くても、統廃合なども含めて、そのとおりにすすむということではなく、各学校の状況や人数によって議論していくものと思っております。
事務局	中学校で言いますと、学級数を4～6学級としましたのは、国で示しております標準的な学級数としておりまして、7学級以上は、標準より多いということで分けておりました。 2学級と3学級を分けますと、回答者に迷いがでてしまうことが予想されるということですが、2学級と3学級の違いというのは、実際にクラス編制をされている教員の方もいらっしゃいますので、アンケートの複雑化につながらないかというところも加味していただきまして、議論いただければと思います。
安井委員長	アンケートの簡素化という意味も含めまして、文部科学省の手引きでは、中学校では、4～6学級となりますが、選択肢につきましては、小学校と中学校共に、「4学級以上」としても良いかと思いますが、いかがでしょうか。
C委員	4学級以上と一つにまとめることで、統廃合するというように、直接的にはつながらないのではないかと思います。 そこまで考える人もいるかとは思いますが、4学級以上にまとめても良いと思います。
森下副委員長	回答を尋ねる側からしても、7学級というのは、避けた方が良いと思われますね。
安井委員長	小学校、中学校共に、選択肢も減りますし、4学級以上とすることでいかがでしょうか。
全委員	(異議なし)

事務局	承知いたしました。
安井委員長	事務局から、他のことで何かありますでしょうか。
事務局	アンケートの内容等につきまして、議論いただきまして、ありがとうございました。 本アンケートにつきまして、本日以降、何かお気づきの点などがありましたら、10月25日（金）17時までに、ご連絡いただければと思います。 もし、ご意見等がございましたら、その内容について、委員長と副委員長に相談させていただき、11月上旬には、発送する予定としております。
安井委員長	1. 審議事項 （2）今後のスケジュールについて、事務局より、説明をお願いします。
事務局	（資料5に基づき説明）
安井委員長	ただいま、事務局より説明がありましたが、何かご意見、ご質問がある方はおられますでしょうか。
全委員	（特になし）
事務局	補足です。 アンケートの回答期限についてですが、町内の私立の保育園、こども園へ意向確認をさせていただき、できるだけ早くアンケートを実施したいと考えておりますが、相手方との調整状況によっては、発送時期や回答期限が1～2週間程度、ずれる可能性があるということも含めまして、ご承知いただければと思います。
安井委員長	事務局からのご報告にもありましたが、今週末に、文部科学省主催の学校の木造建築に関する講習会に事務局の方が参加するという

事務局 安井委員長	ことなので、次回の検討委員会で報告をお願いできればと思います。 その内容を聞かせていただくことで、適正規模、適正配置を検討するうえで、新たな材料にもなるのではないかと期待します。 本検討委員会では、将来の子ども達のことを考え、通いたくなる学校にすることが大切ですので、将来の子どもの立場にたって、夢のような考えをも持ちながらも、アンケート結果などもふまえ、検討していければと思っております。 最後に、事務局から、何かありますでしょうか。 それでは、第3回委員会も13時からの開催とさせていただきますので、よろしくお願いします。 本日の検討委員会を閉会します。
-------------------------	---

※会議資料添付

上記のとおり議事録を作成し、相違ないことを証明する。

令和 年 月 日

議長等 _____

署名人 _____

署名人 _____